



プレスリリース

サローネサテリテ・パーマネ
ントコレクション 日本初上陸

2025.7.24



Salone del Mobile.Milano

2025.7.24

EXPO 2025 大阪・関西万博のイタリア館特別ゲスト、 「サローネサテリテ・パーマネントコレクション」が日本初上陸

国際的なクリエイティビティとメード・イン・イタリア：9月のイタリア館では、ミラノサローネ国際家具見本市（以下、ミラノサローネ）の35歳以下のデザイナーのための展示、サローネサテリテで生まれたプロジェクトが、デザイン文化と卓越した産業との融合への賛辞として展示されます。

2025年9月7日（日）から9月20日（土）まで、サローネサテリテ・パーマネントコレクション 1998-2025 が EXPO 2025 大阪・関西万博に登場し、物語でありビジョンであり、歴史でありマニフェストでもある展示が、イタリア館を豊かに彩ります。

サローネサテリテでプロトタイプとして発表され、そこで企業によって選ばれ、製品化された47点のセクションは、国際的なクリエイティビティとイタリアのノウハウの好循環的な対話の証しであり、26回を数えるミラノサローネの“クリエイティブ・ハブ”を常に特徴づけてきました。展示される作品ひとつひとつが、革新性、生産倫理、形式的言語、アクセシビリティといった共通の価値観の縮図なのです。

ミラノサローネ、マリア・ボッロ代表のコメント：

「大阪は戦略的な舞台です。毎年、ミラノサローネが国や欧州の枠を超え、新たな来場者とビジョンを発掘するための国際的なロードショーの幕開けです。サローネサテリテのパーマネント・コレクションとともに、2025年の大阪・関西万博開催地である日本からスタートすることは、非常に意義深いことです。私たちは、世界のクリエイティビティとイタリアの製造業との出会いを語り継ぐだけでなく、品質、素材への敬意、フォルムと機能のバランスを共有する2つのデザイン文化間の素晴らしい対話でもあります。日本はまた、イタリアが長い時間をかけて強固な架け橋を築いてきた、類まれなクリエイティブな対話相手でもあります。このことは、20世紀を代表する建築家・デザイナーであり、日本の美意識の詩学を解釈することができるカルロ・スカルパや、イタリアをインスピレーションの源としてきた安藤忠雄や坂茂といった建築家たちが証明しています。今日、佐藤オオキ、田村奈穂、佐野隆英など、サローネサテリテの舞台を飾った才能あふれる日本人デザイナーを挙げればきりがなく、この関係を引き継ぎ、親密でありながら普遍的なデザイン言語でイタリア企業と対話を続けています。サローネサテリテの大阪へのオマージュは、クリエイター、企業、地域を、生きた、包括的で生成的なネットワークに結びつけるデザインのマニフェストであり、文化間の架け橋を築き、交流とビジョンの機会を創出し、デザインの価値に最も敏感な国際市場において、コラボレーションの新たな軌道と対話の機会を開くものです。日本が重要なのは、イタリアと同様、デザインが日常生活に不可欠な要素となっている国であり、普遍的な価値があるからです。最後に、イタリア政府、EXPO 2025 大阪・関西万博 イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ大使、そしてイタリア館の全チームに、この重要な国際ショーケースにミラノサローネ国際家具見本市 (Salone del Mobile.Milano) をホストする貴重な機会を与えてくださったことに心から感謝いたします。このコラボレーションは、私たちに榮譽を与え、プロジェクトの文化を通じて、両国間の対話とビジョンを促進するというイタリアンデザインの戦略的価値を確認するものです」

2025年大阪・関西万博イタリア政府代表 マリオ・ヴァッターニ氏のコメント：

「『サローネサテリテ・パーマネントコレクション 1998-2025』展を大阪・関西万博のイタリア館で開催することは、アジア、特に日本の一般消費者の好みを常に先取りしてきたイタリアの優れた製造技術と、国際的かつ産業的な創造性の粋を見せることを意味します。nendo から田村奈穂、川本真人から氷室友里まで、多くの日本人デザイナーが参加するサローネサテリテ常設コレクションは、現在400点を超えています」

SALONE DEL MOBILE.MILANO

若い才能に特化したサローネサテリテ (SaloneSatellite) は、ミラノサローネ (Salone del Mobile.Milano) が主催するイベントです。卓越した育成の場と促進剤、企業からデザイナー、バイヤーから建築家まで、この分野のすべてのプレーヤー間のビジネスと関係のためのダイナミックで特権的なエコシステムで、プロジェクトの役割と進化を観察し、考察するためのスペースです。業界関係者にとっては、実験、コンタミネーション、批判的思考のグローバルな実験室であり、365 日活動するグローバル・デザイン・コミュニティにとって、物理的にもデジタル的にも不可欠な場です。

SALONESATELLITE PERMANENT COLLECTION 1998-2025

サローネサテリテの創設者でありキュレーターでもあるマルヴァ・グリフィン・ウィルシャーのキュレーションによるこのイベントは、若い才能とイタリア企業との豊饒な提携への具体的なオマージュであり、EXPO 2025 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を完璧に解釈しています。

マルヴァ・グリフィン氏のコメント:

「大阪・関西万博のイタリア館で開催される『サローネサテリテ・パーマネント・コレクション 1998-2025 展』では、サローネサテリテが 1998 年の第 1 回開催以来推進してきた、**国際的なクリエイティビティとイタリアの産業**との常に実りある出会いを記念して、展示する製品をイタリア企業の製品に絞っています。この出会いによって、多くの若手デザイナーが成長するための肥沃な土壌を見つけ、イタリアの卓越したもののづくりと向き合い、ビジョンを形にすることができました。このエキシビションは、すべてが始まったその最初の瞬間に敬意を表し、同時に、達成された成果を高めるものです。それは今日、才能の出現を物語るだけでなく、文化的で生産的なコラボレーションの模範を物語るものです」

また、サローネサテリテで頭角を現したデザイナーとイタリアン・ブランドとの関係を象徴するデザイン・カメオである「特別作品」3 点と、イタリア人デザイナーがそれぞれ海外企業の Raat (東明照明) とニューヨーク近代美術館 (MoMA-Museum of Modern Art) の目に留まった製品 2 点も展示され、いずれもコレクションに含まれています。

JAPANESE DESIGNERS ON SHOW

サローネサテリテで頭角を現した最も重要な日本人デザイナーの存在が、本展覧会の中核となっています。彼らのプロジェクトは、文化的アイデンティティとコンテンポラリーなヴィジョンを融合させた進化という、達成された道筋を物語っています。例えば、ネンド (nendo) によるデパドヴァ (DePadova) のための「Chab」は、本質的で洗練されたコーヒーテーブルであり、カッペリーニ (Cappellini) のための「Koeda」は、自然と機能の出会いを本質的なサインに変換した彫刻的なコートスタンドです。また、田村奈穂がコーヴォ (COVO) のためにデザインした「Seasons」は、四季の自然のサイクルを詩的な感性で解釈したテーブルサービス、川本真人によるアリアンテディツィオーニ (Aliantedizioni) のための「Giava」は、本質的で調和のとれたラインを持つフルーツスタンド、佐野隆英のマッシモ・ルナルド (Massimo Lunardo) のための「Kumo」は、イタリアの職人技と東洋的なイメージを融合させた吹きガラスのティーポット。そして、氷室友里が cc-tapis のためにデザインしたラグコレクション「CULTIVATE」は、カッティングのジェスチャーを物語に変える新しいテクニックを用いた織物と彫刻のラグ。Aatismo がジョルジュッティ (Giorgetti) のために制作した「Water」は、「水」というテーマを、生命力と形式的な原理として、光り輝く鍵で再解釈した吊り下げ式のランプ。このように若いビジョンから生まれたオブジェは、今や確かな作家の言語として成熟し、本展が推進する**日伊のデザインの架け橋の文化的・生産的価値**を裏付けています。

日本が新興デザインシーンにおいて重要な役割を担っていることを裏付けるように、これまで何人もの日本の若手デザイナーがサローネサテリテ・アワード (SaloneSatellite Award) を受賞してきました。数多くの特別賞受賞者も加え、受賞者は 42 名にのぼります: 田村奈穂 (2010 年)、Bouillon (ブイヨン) (2016 年)、氷室友

里(2018年)、Kuli-Kuli(2019年)、坂下麦(2019年)、HONOKA LAB(2023年)、SUPER RAT(2025年)。HonokaとSuper Ratのプロジェクトは、SaloneSatelliteの特徴である研究、持続可能性、文化的開放性の精神に合致した革新的なデザインビジョンを提案する若手デザイナーの創造的な活力と能力を具体的に証明するものであり、展覧会内で展示されます。

サローネサテリテのレイアウトを常に手がけてきた建築家リカルド・ベッロ・ディアス(Ricardo Bello Dias)と、アリアドナ・ピネーテ(Hariadna Pinate)が手がけた展示は、MCA - マリオ・クチネッラ・アーキテツツ(Mario Cucinella Architects)が創意と製造力、想像力によって構想されたイタリア館の「知の格納庫」の一部となります。

SALONESATELLITE'S PERMANENT COLLECTION

サローネサテリテのパーマナントコレクションは、ブリアンツァの中心部、レントターテ・スル・セヴェソ(Lentate sul Seveso)にあるアートウッドアカデミーを拠点としており、デザイナーと企業との出会いの成功の結果、現在400を超える製品を生み出しています。学校であり、アーカイブであり、イタリアの木製家具サプライチェーンのプロフェッショナルを養成するワークショップであり、アイデアをモノに変え、モノを文化に変えるための必要条件である、デザインに関する深く総合的な知識を促進しています。2024年の香港に続き、大阪での展覧会は、世界中の文化施設からの招待に応え、巡回を始めたコレクションの国際化のさらなる一歩となります。オブジェを通して語られるナレーションは、デザイン・システムに価値を生み出し続け、関係性の知性を認識し、高めていきます。デザインの未来は、才能と産業がより良い世界を想像し、構築するために出会うとき、生まれていくでしょう、サローネサテリテで26年間、そうあり続けてきたように。

SaloneSatellite Permanent Collection 1998-2025 Exhibition 概要

場所: Expo 2025 大阪・関西万博 イタリア館

期間: 2025年9月7日 - 20日

キュレーター: マルヴァ・グリフィン・ウィルシャー(Marva Griffin Wilshire) サローネサテリテ 創始者 兼キュレーター

展示・グラフィックデザイン: リカルド・ベッロ・ディアス、アリアドナ・ピネート

プロジェクトコーディネーター、コンサルタント: ポルツィア・ベルガマスコ

主催事務局: キアラ・ギラルディ

参加イタリア企業

Aliantedizioni, Billiani, Caimi, cc-tapis, Cappellini, Capsula Mundi, Covo, Giorgetti, Davide Groppi, De Padova, en&is design, De Castelli, Elite, Foscari, Flos, FontanaArte, Francolight, Lodes, Luceplan, Massimo Lunardon, Magis, MDF Italia, Martinelli Luce, Mogg, Moroso, OGTM Officine Meccaniche, Pedrali, Ritmonio, Riva1920, Rubelli, Seletti, Tacchini.

参加デザイナー

Aatismo, Adriano Design, Pierfrancesco Arnone, Felicia Arvid, AZ Design/Andrea Zanini, Enrico Azzimonti & Jordi Pigem, Alessandra Baldereschi, Big-Game, Cristina Celestino, Anna Citelli e Raoul Bretzel, Carlo Contin, Alessandro Corina e Paolo Stella, Cristophe de la Fontaine & Stefan Diez, en&is/Isabella Lovero e Enrico Bosa, Francesco Faccin, Francesco Forcellini, Francisco Gomez Paz, Davide Groppi, Himuro Design Studio, Zsuzsanna Horvath, Hsiang Han Design, Patrick Jouin, Makoto Kawamoto, Lanzavecchia + Wai, Alessandro Loschiavo, Xavier Lust, Francesco Librizzi, Marcantonio Raimondi Malerba, Benedetta Mori Ubaldini, Satyendra Pakhalé, Mikael Pedersen, Daniel Ribakken, Takahide Sano, Oki Sato/Nendo, Studio Truly Truly, Studioventotto, Studio-if, Nao Tamura, Carlo Tamborini, David Trubridge, Vittorio Venezia/Martinelli Venezia, Voon Wong & Benson Saw, Sebastian Wrong, Zanellato Bortotto.